

10.5 つたえるアンケート抄

Facebook「とある民俗学講師の補足メモ」

- * 「メディア media」とは? : 「霊媒 medium」の複数形、さまざまな「媒介するもの」(プラットフォーム/コンテンツ)
- * 「メディアはメッセージである」(by マクルーハン) →メディアが「規定」する思考様式/社会組織
- * メディアの発展は「代替的」ではなく「積層的」→個別的な歴史性に「規定」されるメディア環境の発展
- * 「コミュニケーションの二段階の流れ」(by ラザースフェルト) →オーディエンスの共同体の役割
- * メディア・リテラシーとその限界: 「誰が」「何を」「誰に対して」「どのようなチャンネルで」「どのような効果で」

【タテカン】私の好きなメディアは京大でよく見るタテカンです。入試のタテカンが有名ですが、サークルの紹介や演奏会の宣伝などにもよく使われています。小さなビラよりも目につきやすいですし、長期間置いておけるので、京大という特定の場所を頻繁に使う人に向けた情報発信として有用だと思います。人手がある程度必要で、サークルの人間の多くが関わるので、そのサークルごとの特色が見えるところも面白いと思います。

【裏紙】私の家では伝言用に裏紙を使うことが多く、親しみがある。新聞広告の裏、ミスプリ、使いかけのノートなど、白い紙なら何でも良い。授業資料が裏紙に印刷されているのを見ることもある。裏紙の魅力の一つは、裏に何が書いてあるかである。例えば、正倉院文書の紙背文書として戸籍などが書いてあったりする。裏紙は書き捨てられ、用が済めばすぐに捨てられるという刹那的な性質を持っていて、その切なさも裏紙の魅力であると思う。

【交換ノート】小学生のとき、友達とノートを交換しあった思い出が懐かしい。限られた人数だけの親密な仲が確認できる喜びを感じていたのだろう。恋バナや隠し事などの秘密の話ができて嬉しかった。書くときの楽しさと、渡して帰ってくるまでのワクワク感がよい。自分の筆跡を後にも見返すことが出来る。絵しりとりや質疑応答が楽しかった。そのときには考えていなかったが、今になって懐かしい思い出として鮮明に振り返られる、形のある交換ノートはとても良い。

【新聞】小学3年くらいから「毎日小学生新聞」を読んでいた。小学5年くらいからは大人の新聞も読むようになり、新聞を毎朝父と取り合っていた。父は折り目を付けて読むため、それを嫌った私が父の起床前に読んでしまっていた。朝ごはんを食べるときには折り込みのチラシを見ていた。日曜は日曜版が付いていたので、それを私が素早く読み、その後、母に渡していた。当初は漫画やスポーツ欄ばかりを読んでいたが、学年が上がるにつれて社会欄や科学の解説欄など読める範囲が広がっていった。年末の時期には様々な知識人が一年の総括しながら優れた本の紹介をしており、そのコーナーは気に入って毎年読んでいた。今でも吉田南図書館でたまに読むけれども、露骨に薄くなってしまっていて寂しく思う。

【文庫本】紙の本、特に文庫本。何と言ってもあの手触りがいい。一枚一枚頁をめくるたびに本の中に没頭していく自分に気がつく。片手で持てるサイズのため持ち運びがしやすいのもありがたい。殊に図書館で借りてきた本が好きだ。先日も附属図書館で「ユリシーズ」を借りた。岩波文庫は書庫まで行かなければならず、中々に年季が入ったものであった。古い本だと、本が借りられた日時のスタンプが押されていることもしばしばあり、時空を超えてこの本の足跡を想像するのも楽しい。1998年にこの本を借りた人は、当時学生だったろうが今はどのように過ごしているのだろうか、と。稀に本の中に落書きのようなものが書かれているのを見つけると、倫理的には問題があるかもしれないが少し嬉しい気分になる。読後、高揚感に包まれながら自分が読破したという証拠を残したく考えるが、落書きをするわけにもいかないので、返却期限票の紙をそっと挟んで返却したりする。何年かのちにその紙を次の読者が見つけてくれることを願って。

【電子書籍】私の好きなメディアは電子書籍だ。昔は紙媒体の単行本を買っていたが、どんどん数が増えていって保管場所に困るようになった。それに対して電子書籍は保管場所に困らないし、スマホさえ持っていればどこでも見ることができる。そして電子書籍の何よりも良いところはコイン還元だ。電子書籍が読めるアプリでは1コイン=1円のコインで書籍

を購入するというのが一般的だが、私の使っているアプリでは書籍を買うとコインが50%還元されるというキャンペーンが頻繁にやっている。そのおかげで私は安く読みたいラノベが読めている。

【CD】CDに惹かれる理由の一つは物質性があることである。apple musicなどのサブスクリプションは、熱中していたものでも大量のデータに埋もれてしまった結果、それを見失ってしまうことが少なくないが、大切な音楽が物質として実家や下宿のラックに存在することで、帰省時など折に触れてそれらを聴きなおすことができる。レコードではなくCDなのは、レコードは場所をとりすぎることや、音楽の嗜好的にCDが普及してレコードの生産が少なくなった後の音楽をよく聴くことが理由としてある。プラのケースであれ、紙ジャケットであれ構わないが、中古品などを買った時、歌詞カードがついていないとがっかりしてしまう。

【ラジオ】両親がラジオ好きで幼いころは車の中でラジオを聴くことが多く、石川県のMR0ラジオをよく聞いていた記憶がある。高校生の時にradikoというアプリを知り、スマホでラジオを聴き始めたが、聞く番組はお笑いに関するものばかりで特に星野源のオールナイトニッポンが大好きだった。今でもラジオはよく聞く。ラジオの魅力とは耳のみで楽しめたり、情報が得られたりすることである。課題などをしながら、家事をしながら流していることが多い。

【テレビ】テレビは昨今、マスコミの腐敗だとかオールドメディアの終焉だとか言われており、確かにネットやSNSなどの方が迅速に正確な情報を得られると感じることもあります。しかし、そうしたメディアでは自分が見たい情報ばかりが流れてきます。対してテレビでは、ニュースやワイドショーにしてもバラエティ番組にしても、日本全国の老若男女が見ているわけですから、「今日本の人々が何を考えているのか」を知るための手段としては非常に優れていると思います。また、テレビドラマもとても面白く好きです（今年の秋ドラマはめっちゃくちゃ当たりです）。録画を利用して1クール約10話見れば、2時間の映画およそ5本分になりますが（受信料などを除くと）無料で視聴でき、経済的でもあります。家族団らんのきっかけとしても役立つテレビこそが、メディアの中心であり続けるべきではないかと思います。

【旧twitter（現X）】Xは、多様な情報が手軽に得られるのが好きです。私は高校2年の頃から勉強垢でXを始め、今ではツイ廃と化してしまいました。Xでは、最新のニュースや専門的な知識、娯楽に関するコンテンツが豊富に揃っています。また、自分の興味に合わせて内容を選べる点も魅力です。特に私は、数学や科学に関連する記事や動画をよく見ます。これらは学びを深めるのに役立ち、楽しみながら知識を広げられるのが良いと感じます。さらに、ツイ廃の仲間たちと交流を深めることができ、謎の友情を作ることできます。「顔ない」とか「横転」といった言葉も学べます。

【インスタ】Instagramは、投稿の種類が多様さが魅力だ。通常の投稿は、編集した写真などを用いて時間をかけてすることができる。ストーリーは撮ったばかりの写真や動画をすぐに上げることができ、24時間で消えるため気軽に投稿ができる。動画をリールとして投稿することもできる。ストーリーの編集機能もさまざまなものがあり、投票機能や音楽をつける機能もある。そして「親しい友達」の機能により、自分の投稿を誰に見せるか限定することもできる。久しく会っていない友人の近況を知ることができ、ストーリーを見てDMをするなど新しいコミュニケーションが生まれることもある。新しく知り合った人とInstagramを交換すれば、その人の趣味や日常を知ることができ、会話が弾む。

【サブスク】大学生になってからアマゾンプライムビデオに入会したのですが、自由な時間がたくさんあるのでその時間を使って有名な映画や話題の作品を鑑賞して楽しんでいます。映画館で見ることももちろん好きなので、最新作や前から注目していた作品などは実際に出向いて見るのですが、サブスクの利点は家で好きな時間に気軽に楽しめることです。映画館だとつまらない映画だったとしても最後まで見ないともったいない気がして最後まで見るのですが、サブスクならつまらなかったら途中で簡単に次の作品に移れて時間を有効に使えるのもいいです。プライム会員なら見放題だし、月額も安いのでいろんな友達におすすめしてます（笑）